

日本港湾経済学会年報

港湾経済研究

ウォーターフロント開発と港

NO. 28

1990

日本港湾経済学会編

序

日本港湾経済学会会長 北 見 俊 郎

ベルリンの壁が崩れはじめてから一年にもならないうちに「統一ドイツ」が誕生しました。1961年の夏の夜半に、私は独りでブランデンブルグ門の下にたたずんで、東西ベルリンの夜景を暗い憶いで見くらべておりました。それはあとで考えると、壁が出来る直前の事でした。それだけに壁がなくなったことは、いろいろの意味で心からうれしく思います。

壁があった29年は、ほぼ日本港湾経済学会の歩みと同じで、今年は第29回の全国大会を川崎港で迎えることとなります。日本の様々な学会も、一方では専門分野の学的深化を図ると共に、他方ではできる範囲で壁を取り去ることも必要かと思えます。日本港湾経済学会は社会科学系列の学会として誕生しましたが、社会科学の面からの研究をより深めると共に、人文化学や自然化学との交流をもふくめた「学際性」(interdisciplinary)を求めることも必要かと思えます。

本年度の全国大会は、初めて川崎港で開催させて頂くことになり、川崎市港湾局をはじめ関係各位に一方ならぬ御世話を頂いたことを心から感謝し、厚くお礼を申し上げねばなりません。また大会の共通論題も「ウォーターフロント開発と港」という「学際性」を示す内容でもあります。

この年報は、その共通論題と自由論題をふくめて、No.29として公刊されることを喜び、執筆・編集・印刷等の方々に感謝すると共に、せまい壁にとらわれない自由な学会と充実した年報としてより良き発展を遂げるよう祈ること切なるものがあります。

(1990年・秋)

目 次

序	北 見 俊 郎
---------	---------

研 究

共 通 論 題

ウォーターフロント開発と港	金 在 河 (1)
千葉のウォーターフロントの地域構造	遠 藤 幸 子 (17)
帆船海王丸とウォーターフロント政策	雨 宮 洋 司 (31)
ウォーターフロント開発と漁業権問題	小 林 照 夫 (46)
港湾景観の分析と評価	芦 見 忠 志 (58)
	榭 原 和 彦
ウォーターフロント問題の基本的課題	北 見 俊 郎 (72)

自 由 論 題

港湾産業の独立性に関する一考察	金 亨 泰 (86)
港湾諸費用形成要素と競争条件	千須和 富士夫 (100)
横浜港における港湾産業の生産力構造	松 橋 幸 一 (117)
国際化と港湾財政	日比野 光 伸 (132)
港運経営の変貌と企業経営戦略	富 田 功 (146)
富士川舟運と清水湊の形成	谷 任 (164)

書 評

松橋幸一著「港湾経済文献事典」	安 彦 正 一 (183)
市来清也著「国際物流要論」	木 村 武 彦 (187)
横浜港史刊行委員会編「横浜港史」	柴 田 悦 子 (191)
Marc J. Hershman, Urban Ports and Harbor Management	山 上 徹 (195)

学 会 記 事

第28回全国大会（北九州港）概要	(199)
シンポジウム概要	(200)
部会活動状況他	(207)
編集後記	(210)